

最初の動機



人はどのようにして自分の職業を選択するのだろうか？

例えば、ここに化粧品会社の美容部員になった女がいたとする。彼女はなぜ美容部員になったのか？　さまざま理由は考えられるが、「誰か美しくあげたい！」という動機よりは、彼女自身がまず「美しくなりたい！」と思ったのが一番最初の動機ではないか。彼女自身が自分の美貌にコンプレックスを持っていたから彼女はそれを補うべ美容の道へ進んだのだ。

例えば、ここに医者になった男がいるとする。彼はなぜ医者になったのか？

さまざまな理由は考えられるが、「誰かを治したい！」という動機よりは、彼自身が何かの病に犯されて、それを「治したい！」と思ったのが一番最初の動機ではないか。彼自身が自分の健康にコンプレックスを持っていたから彼はそれを補うべく医療の道へ進んだのだ。

例えば、ここに役者になった男がいるとする。彼はなぜ役者になったのか？

さまざまな理由は考えられるが、「誰かを楽しませたい！」という動機よりは、彼自身が非社会的で友達が少なく寂しい毎日を送っていて、「友達がほしい！」と思ったのが一番最初の動機ではないか。彼自身が自分の非社交性にコンプレックスを持っていて、彼はそれを補うために演劇の道へ進んだのだ。

もちろん、例外はたくさんあると思うが、人間が職業を選択する時の最初の動機は、他人のためと言うよりは、その人間のコンプレックスに根差している場合が多いように思う。そういう意味では、コンプレックス(ここでは「劣等感」という意味で使っている)こそ、人間とその文明を進歩に導く最大の原動力である。かく言うわたしも例外ではない。

高橋いさを

〈劇団シヨーマ主宰 劇作・演出家〉